

最高値更新が射程圏に入った米配当貴族指数



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米配当貴族指数は最高値が視野に

インフレ抑制に向けたFRB（米連邦準備制度理事会）の積極的な利上げ姿勢や、それに伴う米国の景気後退懸念が意識される中で、S&P500配当貴族指数は最高値更新が射程圏に入るなど、先高観が強まりつつあります（右上図）。同指数はS&P500種株価指数構成銘柄の中で、25年以上連続で増配を行なっている企業で構成（注）されており、世界的にもよく知られている指数の一つです。

同指数は連続増配企業で構成されていることからわかるように、配当の原資となる利益が安定的に成長している企業が中心となっています。課税前配当込みでみると、同指数は母集団であるS&P500種株価指数や、TOPIX（東証株価指数）を大きく上回るパフォーマンスとなっており（右上図）、長期視点でも魅力的な指数といえます。

ポイント② 米景気後退局面に強い傾向がある

連続増配企業で構成されるS&P500配当貴族指数は景気後退局面で強さを発揮する傾向があります。同指数とS&P500種株価指数の相対指数をみると、新型コロナウイルス感染拡大で急な景気後退に陥った2020年を除き、1990年以降の3回の景気後退局面前後で、S&P500種株価指数を大きく上回るパフォーマンスとなっています（右下図）。

FRBによるこれまでの大幅な利上げを背景に、今後米国が景気後退に陥るとの懸念が市場では強まっており、足元でこうした局面に強いS&P500配当貴族指数が優位な展開となっています（同図）。不確実性の高い局面が続くとみられるなかでは、同指数のようにクオリティの高い株式をポートフォリオに加えるのも一手といえそうです。

主要株価指数の推移（課税前配当込み）



S&P500配当貴族指数/S&P500の相対指数とFF金利誘導目標上限値



(注) S&P500配当貴族指数は構成銘柄数が40を下回った場合には、20年以上連続で増配している銘柄の中から補充されます。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。